

旧大沢小学校を地方創生の拠点へ

～廃校を活用したリビングラボの整備支援利活用促進事業～ (デジタル実装タイプ) テレワーク型

■経緯

令和4年11月、町は民間活力を最大限に生かし、町全体への地域貢献を目指すため、平成26年3月をもって閉校した旧大沢小学校の利用者を公募しました。審査の結果、一般社団法人ナスコンバレー協議会（※）が廃校利活用事業者に採択され、令和5年5月から利用を開始しました。

■交付金での主な修繕箇所

- ・校舎外壁等改修
 - ・校舎内トイレ/エアコン新規設置
 - ・校舎外整地及びインスタントハウス、防災用トレーラーハウスの設置
- ※インスタントハウスやトレーラーハウスを新たに設置し、宿泊や災害時の避難場所としての使用もできるようにしました。



校舎内トイレの新規設置



インスタントハウスの設置 (LIFULL STAY 提供)



エアコンの新規設置

■旧大沢小学校の活用方針

那須町をフィールドとして、町の課題解決に向け、さまざまな企業が協力しながら新しい価値を作る支援をすることにより、廃校の利活用モデルの確立と都市部企業等の誘致を図り、移住定住人口の増加、二地域居住の促進や関係人口の創出・拡大につなげています。

また、事業を実施するナスコンバレー協議会は、那須地域に日本最大級のリビングラボ（※1）としての整備を進め、会員企業と共に Well-being（※2）な21世紀型社会の実現に向けた、複数の実証実験を行っています。

具体的には、自然エネルギーを利用して電力を得るオフグリッドハウス、さまざまな泉質を楽しむことができるクラフト温泉などがあります。



※1 リビングラボとは「リビング(生活空間)」と「ラボ(実験場所)」を組み合わせた言葉のこと

※2 Well-beingとは 幸せに関するサイエンスや計測技術などを利用して幸福度の高い地域社会やコミュニティのモデルづくりのこと

■今後の取り組み

これまでのナスコンバレー協議会での実績や県内外の企業との関係性を生かし、旧大沢小学校の地方創生拠点化に取り組んでいます。

具体的には、ナスコンバレー会員企業のサテライトオフィスや実証実験、ラボスペースとして教室の貸し出しを行うほか、会員以外の地元企業や町民の皆さんが交流・共創する場も設置する予定です。



■一般社団法人ナスコンバレー協議会（2021年10月1日設立）とは

国内外の企業、学術機関、研究機関、個人等の保有する先進技術の実証実験、社会実装を那須地域で実施するため、自治体や関連諸団体との連携・協力を通じて未来のあるべき社会を創造し、その成果を広く国内外に展開すること目的としている企業です。